

アートプロデュース学科

教育目標（育成する人材像）

価値観やものの見方が異なる他者に関心を持ち、他者とのコミュニケーションを通して新たな価値を創出することができる人材を育てます。そのために必要となる「みる・かんがえる・はなす・きく」能力を能動的かつ総合的に活用することができ、創造力、人間力、セルフ・エデュケーション力を兼ね備えた、アート・人・社会をつないで活かすことができる人材を育てます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

修得する能力

探求力	「これは何？」という問いを持ち、「みる・きく」能力を十全に発揮することで、体験や観察、調査などを通してこれらの問いを解消することができる。
思考力	「それはなぜ？」という問いを持ち、「かんがえる」能力を十全に発揮することで、整理や分析、検証や批判などを通してこれらの問いに対する考察や解釈、理解を築くことができる。
発想・構想力	「どのように、いかにして？」という問いを持ち、「みる・かんがえる・きく」能力を相乗的に活用することで、編集や仮説生成、企画などを通して新たな価値への着想や、その実現への計画に結びつけることができる。
表現力	「みる・かんがえる・はなす・きく」能力を相乗的に活用することで、発見した新たな価値を文章やプレゼン、展覧会やその他表現方法を用いて他者に的確に伝達することができる。
行動力	「みる・かんがえる・はなす・きく」能力を総合的に活用し、目的意識を持って具体的な行動を実行することができる。
継続力	「みる・かんがえる・はなす・きく」能力を総合的に活用してセルフ・エデュケーションに取り組み、自らを高めるために持続的な取り組みをおこなうことができる。
コミュニケーション力	「みる・かんがえる・はなす・きく」能力を総合的に活用し、他者とともに問題発見や解決、新しい価値の創造をおこなうことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

アートプロデュース学科ではアート・人・社会の関係を考え、それぞれの間の架け橋として、これらを接続したり、かけ合わせることを通じて、新たな価値や今後の社会を築いていくことができるようになることを目指します。そのために必要な考え方や知識、技法や技術を以下の5つの領域から習得していきます。

- ・他者、作品（対象）、自分と向き合い、その関係性を深める「コミュニケーション」
- ・社会的な視点を身につけ、学内外において場づくりや社会的活動を実践する「コミュニティ」
- ・アート・人・社会について考えるために必要な理論や思想を学ぶ「フィロソフィー」
- ・研究や活動を通して、新たな価値を創出する「アクティビティ&クリエイション」
- ・学科での学びを将来の活動に結びつけ、実現する「キャリア」

これらを総合的に学ぶことを通じて、アートプロデュースに必要な基礎知識や技術を学ぶとともに、プロデュース的思考をアート界に限らず様々な領域で実践・活用し、社会や人々に貢献できる能力を獲得します。

学修方法

アートプロデュース学科では、教わったことを受動的に受け取るだけでなく、一人ひとりの学生が自ら問い、考え、言葉や活動を通じて他者にアウトプットし、よりよい将来のため他者とともにそれらを探求していく能動的な学習を強く推奨しています。

そのため、以下の点を科目の運営・実施において重視し、また、学習者にもこれらの学修方法を求めます。

- ・学科専門科目においては演習科目・講義科目を問わず、教員・学生間の双方向コミュニケーションを重視する、少人数制アクティブラーニング型の学習を基本とします。
- ・演習科目では、個人の活動だけではなく、学生間のコミュニケーションによる協働的な実践を重視します。また、単なる活動の体験に終わらず、ふりかえりや分析などを通じてそれらの実践から個々の知見や学びを引き出し、活用できるようになること目指します。
- ・講義科目では、単なる知識の理解や習得に留まるのではなく、それらの知見を活用し様々な事象を論理的に考察することで思考力と、それらを表現することで言語活用能力を身につけます。
- ・学科主要科目については、授業担当者に限らず1年次から学科教員による個別指導を行います。
- ・初年時のラーニング・リテラシー、2年次のプレゼミ、3・4年次のゼミを通じて、各自の専門領域や将来の進路に応じたテーマを設定し、研究・制作が行えるようにします。

■学修過程

- 1年次：大学での学修の素養を身につけることを重視します。特に受動的な「教わる」姿勢から、主体的に「学ぶ」姿勢への転換と、他者とのコミュニケーションによる協働の姿勢を初年次から重点的に身につけ、作品（モノ）、他者・自分（ヒト）とのコミュニケーションと学習の基礎を身につけます。
- 2年次：思考の基礎となる理論や知識を習得するとともに、社会実装プログラム等での実践を通じて、専門技術や社会で自分の能力を活かす術を身につけます。
- 3年次：社会に向けた実践や業界調査による実社会の問題発見・解決に携わることで、将来を見据えながら社会での実践を積むとともに、各自の専門領域や進路に応じたテーマを取り上げ、研究・制作に取り組みます。
- 4年次：自分自身が専門とするテーマで卒業論文または展覧会をつくりあげ、その成果を社会に向けて発信します。また、こうした研究や活動、学科での学びを活かした就職や進学といった進路活動を展開します。